

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292700133		
法人名	株式会社 ワカバ		
事業所名	湖北台ケアガーデンワカバ		
所在地	千葉県我孫子市湖北台10-9-21		
自己評価作成日	令和5年3月6日	評価結果市町村受理日	令和5年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年5月よりインドネシアからの技能実習生を受け入れている 実習生自身のスキルアップもさることながら 受け入れる側のスタッフのスキルアップ 事業所全体のスキルアップを目指す ・コロナ禍が落ち着いたら社会福祉協議会を通じてボランティアの受け入れを再開して利用者様に楽しみのある日常の提供にちからを入れていきたい それを強みにしていきたい ・画一的ではない柔軟な日常、柔軟なスタッフの対応にて 利用者様に楽しさを感じていただけるような事業所を目指す
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年3月30日		

<p>長くホームで生活している利用者も多く、重度化で車椅子利用が増えている。医療連携が密であり、月2回の訪問診療、毎週の訪問看護で健康管理をしている。また医師と24時間連絡を取れる体制があり、利用者・職員の安心につながっている。食材は業者委託し、ホームで調理しているが、選べるイベントメニュー、手作りメニュー、テイクアウトなど、好きなものを食べる機会もある。訪問調査時は海外からの技能実習生が、レシピを見ながら上手に調理している姿が見られた。コロナ禍で外出がままならないが、1階の小規模多機能事業所の外のデッキに椅子が置かれ、花壇や隣接した公園の桜を眺められる良いコーナーになっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
1	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 湖北台ケアガーデンワカバ	事業所理念の『支え愛』をもとに思いやりを持って笑顔溢れるサービスができるように利用者様の声に耳を傾けて、ケアの向上のために提案して実践しています。	ホーム独自の理念を管理者と職員が共有し、実践につなげている。管理者は職員の声をよく聞くようにしており、出された意見は全員で話し合い、利用者の支援に活かすようにしている。	
2	(2)	千葉県我孫子市湖北台10-9-21 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域と関わる機会はとでも減りましたが、地域の要望もあり週に1回移動スーパーの場所として提供し地域の皆さんとのつながりの場を設けています。	自治会に加入しており、清掃活動や防災訓練に参加している。また「子ども110番」の家に登録し、地域の防犯活動に協力している。隣接して大きな公園があり、子どもが立ち寄ることもある。コロナ後を見据え、地域との交流をさらに深めることが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが流行する前は毎月第2と第4の月曜日の午後1階のフロアを使って介護予防教室を開き、スタッフも15分程度講師となり、体操や実際に行っている脳トレを披露していましたが、現在は収束まで会場をすぐ近くの自治会館で行い、スタッフの参加も中止しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、集まっての開催ができず、書面での報告のみしか行っておりません。しかし、今後はコロナに対する対応や考え方も変わってくると思われるので以前のように集まっての開催をサービス向上に生かしたいと思えます	コロナ禍のため運営推進会議は書面開催としている。報告内容は入居者状況、行事開催状況、事故・ヒヤリハット報告、スタッフ会議などで、市の担当者や地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族へ送付している。	運営推進会議は書面開催であるが、参加メンバーと双方向の会議となるように、ホームからの報告内容に意見をもらう取り組みも望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍により、市町村担当者と連絡はあまり密に取れていませんが、電話で実情やケアサービスの取り組みを説明したり空き情報や待機状況を伝えています。	行政の担当者とは随時連絡を取っており、空室情報を伝えたり、問い合わせに答えている。また各種助成金、補助金の申請などで、毎月担当課を訪問している。地域包括支援センターからは入居希望者を紹介されることもあり、連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議の虐待防止の研修の際に今まで行っていた支援方法がいずれ虐待行為に繋がってしまうことを学び、支援の仕方の見直しをしたり、声掛けが良くないと感じた時にはその都度注意し合う環境づくりの為に、スタッフ間で相談したり、入居者が何を求めているのかを知るためによく話をすることに心がけています。身体拘束委員会も設置しており、管理者・計画作成担当者・スタッフ2名で構成していて3か月に1回委員会を開いて話し合いをしています。また年2回程度 教育 研修をしていく。	身体拘束廃止の指針を整備し、委員会を設置している。安全上必要と判断された利用者には、家族の同意を得て、ベッドに離床センサーを設置し、転落・転倒の防止に努めている。	身体拘束適正化委員会や職員研修は事業計画に組み入れ、今後も継続的に開催をしていくことが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	令和3年に虐待防止法について系列事業所の施設長を講師として呼び学ぶ機会を設けて正しい知識を持ち、良くなさそうだなと思う声掛けや介助については注意し合えるような環境づくりに努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はスタッフ会議の際に成年後見制度について学ぶ機会が持てなかったが、実際に入居者様に後見人様がついているので仕組みを知る研修を来年度は取り入れます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、ご家族様の不安や疑問点を伺い、安心して入居日を迎えられるように支援方法を十分に説明し、理解を得ています。また、改定の際には、書面にて説明し対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する意見や要望は電話でやホームへ来所の際などいつでも受け付けているホーム内で処理できない場合は社内で相談し運営に反映できるよう努めている	コロナ禍のため、家族の面会は時間や場所を制限しているが、来訪の際に意見を聞くよう努めている。家族の意見は個別のケアに反映している。利用者の意向は日々聞き取っており、内容によっては家族とも相談して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフミーティングでは誰でも自由に意見を述べる機会があるその意見についてみんなで検討し反映すべきものは反映している	職員意見はスタッフミーティングや個別面談で聞いている。職員から希望休や退勤時間について意見が出て、出退勤の時間を見直した事例がある。個別に仕事上の相談にも乗っており、管理者が助言をおこなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と一緒に勤務している中で上司に評価を報告したり、勤務について相談を受けて話し合った結果について報告したり勤務形態の変更について相談し働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	未経験の方も中にはいるのでケアや力量に差が出ないようにスキルアップの為に会議の際に排せ介助の研修をしたが、今後は実際にオムツの業者から講師を呼んで統一したケアができるようにしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により中々、同業者と交流する機会が減っているが、系列のGHワカバあびこが近くに移転したこともあり、人事交流を含め、他事業所の良い点を取り入れてサービスの向上をしていきたいと考えています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居からしばらくは環境の変化により不安なことや困っている事などを傾聴したり、行動を観察したり、生活歴をアセスメントシートだけでは実際に話をし、知ることで信頼関係を築くように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に不安やお困りごとを伺い、電話や面会の際であったり、毎月の介護連絡票に写真を添え報告して安心して頂けるよう関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要としている支援については管理者・ケアマネージャー・スタッフと話し合い柔軟に対応出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただお世話するだけでなく、食器拭きや洗濯物たたみ等、本人の出来ることを見極めて役割を持つことで一緒に生活していると感じられるように感謝の言葉も伝えて信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	緊急時だけでなく、対応できる時にはご家族様にも病院受診に対応して頂いたり、本人の安心や活力のためにもなるべく面会にも定期的に来て頂けるようにご家族様に連絡したり状況を報告して本人と家族の関係が途切れないように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族だけでなく、親戚や友人等の関係が途切れないよう事前にご家族や本人に伺い面会をできるように努めています。	家族や親戚は事前連絡のうえ、面会に来てもらっている。建物の1階には同法人の小規模多機能事業所があり、コロナ禍前は、利用者の友人が来た際に会いに行くことを支援していた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状によって利用者同士の相性も違う為、座席の配置には配慮して1人が好きな方もいらっしやるのでその方は、スタッフが声を掛けるようにして孤立してしまわないように努めています。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が他の施設に移られた際には、その後も安心して生活できるように、施設のケアマネジャーにこれまでの施設での生活状況等を伝えたり相談に乗るよう努めています。				
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話ができる方には、思いや意向を十分に聞き、困難な場合は本人の表情や行動から把握するようにしています。話から出た気持ち等は管理者・ケアマネジャー・スタッフと情報を共有し支援に努めています。	表情や様子をよく見ることで、思いや意向をくみ取っている。また利用者職員と一緒にコーヒーを飲んだりする中で、ゆっくり話を聞いている。聞き取った意向は記録や朝礼・ミーティングなどで職員間の共有を図っている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートから得られる情報だけでなく本人やご家族から聞いた情報も含めて管理者だけでなく日頃から見ているスタッフも面会の際に聞く等して把握と情報の共有に努めています。				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や顔の表情や姿勢であったり本人のペースに合わせて休んで頂いたり体調の確認をして生活して頂いています。また、トイレでの立位保持の力やどの程度移動の際に足が動くのかも観察しています。				
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の体調や精神的な部分での変化をスタッフから報告をもらい、管理者及びケアマネジャー・かかりつけ医・家族にも話し、そこから出た意見を元に今の本人に見合ったケアプランを作成しています。	居室担当職員の情報をもとに、ケアマネジャーが介護計画を作成する。日々のケアは計画に沿っておこなうよう努めている。半年に一度、担当者会議を開催して意見交換している。変化があった場合は、かかりつけ医・家族など関係者の意見を踏まえ計画の見直しをしている。	利用者家族に対し、介護計画の説明はおこなっているが、内容に関して意見交換する機会が増えると、さらに良いと思われる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子の中で変化があったことや発見したことや試しに実践してみたこと等を記録に残す様にし職員間でも記録を見たり朝礼時に確認及び情報共有しており、それを元にケアプランの変更・継続をしています。				
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、ご家族様での対応が難しい時には、施設で対応するようにしています。また、1階の小規模多機能から入居になられた方もおり、小規模多機能方で仲が良かった方と日中はなるべく過ごせるように対応しています。				

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週水曜日の午後に地域のスーパーによる移動スーパーが事業所に来て地域のお客様がお買い物する中で入居者の方も混ざってお小遣いで買いたい商品を買って楽しめるように支援しています。(蔓延防止等重点措置や緊急事態宣言中を除きます)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医以外でかかったことのある病院の有無を確認したり、緊急時の希望の搬送先をご家族に伺い、病院受診の必要性が出た時には希望の病院になるべくかかれるように先生に伝えて紹介状を書いていただいています。入居者の体調の変化時は先生に連絡・相談し指示を仰いでいます。往診にも対応してもらっている	ホームの協力医による月2回の訪問診療や週1回の訪問看護で利用者の健康管理をおこなっている。協力医には、夜間帯も対応してもらっている。また、希望により従来からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。歯科衛生士による口腔ケアも行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフはよく入居者の日々の変化によく気が付き訪問看護師が来た時には、相談し、アドバイスを受けた事に対して1週間実践したり、受診の必要性も聞いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人情報シート(サマリー)を渡して、環境の変化に敏感な方には入院先の看護師に伝えていきます。また、現在は、コロナ禍により、退院前のカンファレンスがない為に退院までに担当の看護師やソーシャルワーカーさんに気を付けること等確認しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の事業所の方針を説明をした上で本人ご家族様のご意向を聞き共有し、適宜、かかりつけ医と管理者及びケアマネジャー・ご家族様とサービス担当者会議を開いてスタッフにも説明して支援しています。	重度化や終末期に向けた指針は整備されており、入居時に家族へ説明し同意を得ている。重度化が進み食事量の減少や睡眠の増加など状態に変化が見られた場合は、家族に再度意思を確認する。医師、家族 職員で話し合い、希望に沿ってホームでできることを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、管理者やかかりつけ医、ご家族への連絡や説明など全員が出来るようにまた、緊急時、飲んでいる薬もすぐに答えられるように適宜個人ファイルの薬表を見るよう指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くに高校があり、近隣の住宅に寮としてスポーツをしている学生が生活しているので車椅子の方の避難の際に協力関係が結べるようにしていると考えています。また、震度4以上の地震の際には管理者に安否や異常がないかの報告するようスタッフには伝えていきます。また3日分程度の食料など備蓄している。ハザードマップなども常時見られるようにしている	避難訓練を実施している。また停電に備え、施設内に自家発電機につながるコンセントを4か所設置している。発電機の操作方法については職員研修で伝えている。水、食料は3日分を備蓄し、一覧表を作成して管理している。	災害時には地域の協力が得られるよう自治会と話し合うことが期待される。また法人本部の支援を得て、事業継続計画(BCP)の作成が望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ性格や生活歴も異なり、また認知症状も違うが声をかける際にはその方に合わせて声の大きさや視線を合わせて対応しています。自分より年上で経験豊かな先輩に対するにふさわしい言葉かけのなかにも親しみを込められるよう心掛けている	管理者は職員に、利用者の人生に敬意を払うことを意識するよう指導している。利用者への声かけについても、行動を制限をしないように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーション以外で少しでも時間が出来た時には、なるべく入居者の方とお話するようにして思いを閉じ込めてしまわないように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、不安や不穏で落ち着かない時は利用者様を優先するように常に伝えていきます。トイレや入浴の声掛けはしても行きたくない時には無理にはせず、間を空けて対応するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする習慣がまだ残っている方には出来るように準備したり、好きな洋服やこだわりの服がある方には選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2回はスタッフが考案したり入居者様に食べたいものをリクエストしていただいて手作りの物を提供したり食材配達会社の行事食メニューを月に1~2回程度取り入れる等して楽しんでいただいています。また、おしぼりを巻いてもらうなど手伝いもしてもらっています。	食材を業者から取り寄せて作っているが、選べるイベントメニューがあったり、曜日によっては希望のメニューを手作りしたり、ときにはテイクアウトで食事を楽しんでいる。移動スーパーも来ており、買い物は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、体重測定を行い、増加傾向にある方は食事量を調整しています。水分に関しては、食事やお茶の時間以外にも適時提供して脱水や便秘の予防に努めています。肺炎にもならない様に嚥下状態に合わせてとろみをつけて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き粉を飲んでしまいがいが難しい方には口腔ティッシュを使って清潔保持しています。口臭や磨きがあまい方にはご希望にて訪問歯科にて週1回口腔ケアをして診てもらい肺炎予防に努めています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人で立つことが難しい方でもトイレだと排便を確認することができる方の中にはいらっしゃるので二人介助で対応したり、転倒リスクが高くトイレが頻回な方はご家族の許可をいただいた上で居室にポータブルトイレを置くなどして対応しています。	車いす使用の利用者も含め、トイレでの排泄を支援している。排泄チェック表から個別のリズムを把握したり、トイレに行きたい様子を察知して声かけしている。ジェスチャーで誘うなど、自尊心への配慮も心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スタッフには認知症の方の多くは便秘が原因で落ち着かなかったり不機嫌になってしまうことを説明しており、薬の見直しや水分の提供を適宜試みながら牛乳を提供して効果を試みようと意見もスタッフからあがり実際に実践して便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安として週間入浴表を作成しているが、実際は入所者様のその日の体調や気分に合わせて入浴支援しています。ただ今のところ午前中を入浴に当てている	毎日お風呂を沸かしている。利用者の気持ちを尊重し、入りたくない場合は無理強いせず、少なくとも週2回は入浴できるよう支援している。足湯スペースがあり、利用者同士や個人でゆったりと過ごせるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただくために居室の温度や湿度に気を付け、眠れない時にはどうして眠れないのかを尋ねたり、温かい飲み物を提供してみたり、夜間であれば眠くなるまで夜勤スタッフと事務所で過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人がどんな病気・症状で薬を内服しているのかスタッフが把握出来るように個人ファイルに処方薬表を入れて閲覧し、救急搬送時には誰もが答えられるように努めています。実際にその薬の効果と副作用について訪問看護師に聞くスタッフもいます。介護サマリーも用意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で認知症状も重くなってきた中で中々全員でレクリエーションを行うのは難しい状況です また生活歴や力を生かしていただくことも難しくなっている 嗜好品に関しては楽しみごととしてできるかぎり提供していきたいと思っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍と車椅子使用者が多いので外出支援は現状できていない。がこれからの季節ドライブや外気浴をどんどん取り入れたいと考えています	重度化の進行に伴い車いすの利用者が増えている状況であるが、四季の花を眺めながら、遊歩道でリハビリ散歩を楽しんだり、テラスで日光浴をするなど、一人ひとりの状況に合わせてできる限り外気に触れる機会を作っている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う機会はあまりありませんが、ワカバに毎週水曜日の午後に近隣のスーパーの移動スーパーがくるので、そこで飲み物やおやつなど買い支払いもできる方には払っていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症状が重いので自ら電話かけることは殆ど難しいですが、ご家族から届いた手紙やメッセージカードを見せて読み上げたり蔓延防止や緊急事態宣言でない限りは定期的にご家族様との面会を設けたりしている また携帯電話を持ちたいと希望される方にはその旨ご家族に伝えている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物のつくりの関係上、音がとても響きやすいので音には十分に配慮するようスタッフにも指導しています。また、寒さや乾燥には敏感ですので温度の調節もし、入浴介助の際もヒートショックの防止に努めています。また、季節の作品を飾ったり花を生けたりして季節を感じていただいています。	利用者は一日の大半をリビングで過ごしている。音が響きやすいため、職員は声かけのトーンや生活音に配慮している。また毎日の清掃や室温にも気を配り、居心地のよいリビングとなっていた。スウェーデン発祥の楽器・ブネによる音楽ケアの再開も検討している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブルが3台あり、その他に和室やソファもあるので、入所者様同士の相性が合わないことも時にはある為、気分が落ち着かなかつたり独りになりたい時などは自分の席ではなく別のテーブルに移動したり、仲の良い方々は同じテーブルにする等しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時及び本人のご要望時にはご家族様に相談して安心して過ごせるように自宅から使い慣れた物(仏壇やテレビ、食器)や必要なもの持参していただいています。	居室には、ベッド、エアコン、防災カーテンが整備されている。ホームで布団も用意しているが、使い慣れた布団を持ち込むこともできる。また、好みの家具やテレビ、仏壇などを持ってきている。各居室には表札をかけて、部屋を間違えないように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方が多くですが、居室のポータブルトイレまで歩きたい気持ち強い方はご家族の同意を得た上で居室内は自由に歩けるようにしたり、車椅子の方でも動きたい方は足で漕ぐように促しています。また動線上には物を置かないようにしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと